

臨床検査技師の教育と定着率向上 人的資源の維持が経営を守る

神戸常盤大学保健科学部医療検査学科学科長

坂本秀生

はじめに

日本における臨床検査技師の歴史は1951年まで遡り、卒前教育は臨床検査技師等に関する法律に従った臨床検査技師養成校にて知識と技術を学んでおります。本稿では臨床検査技師のキャリアと定着率向上に向けた業務改善の参考にできるよう、臨床検査技師の新卒者の就職動向、離職に関する調査の概要をお伝えします。

新卒者の就職動向

2025年4月に入学生を受け入れた臨床検査技師養成校は専門学校20校、短期大学3校、大学80校(国公立26校、私立54校)と合計103校あり、2025年2月に実施された臨床検査技師国家試験で合格した新卒者は3976人でした。

全ての臨床検査技師養成校が会員となり構成される日本臨床検査学教育協議会では、隔年で新卒者

の進路も調査し、会員校へ結果を返却しております。臨床検査技師の採用者数は施設および採用年で大きく異なるので、2018年から2024年まで隔年で調査した4回の就職動向を集約しました。回答者数(回答率)は2018年2006人(62%)、2020年2258人(73・5%)、2022年2003人(70・4%)、2024年1831人(51・9%)と、4年分で合計8千人超の新卒者の就職動向になります。

新卒者の就職状況を視覚化する



さかもと・ひでお ●1987年藤田保健衛生大学衛生学部卒業、同大学院臨床検査技師。98年 藤田保健衛生大学大学院 博士(医学)、Harvard Medical School, Postdoctoral Fellow。2000年藤田保健衛生大学医学部 助手。03年Harvard Medical School, Research Fellow, 06年Instructor。09年神戸常盤大学保健科学部医療検査学科学科教授、15年より同学科長